

電話室

すぎむら 杉村

そじんかん 楚人冠

記念館

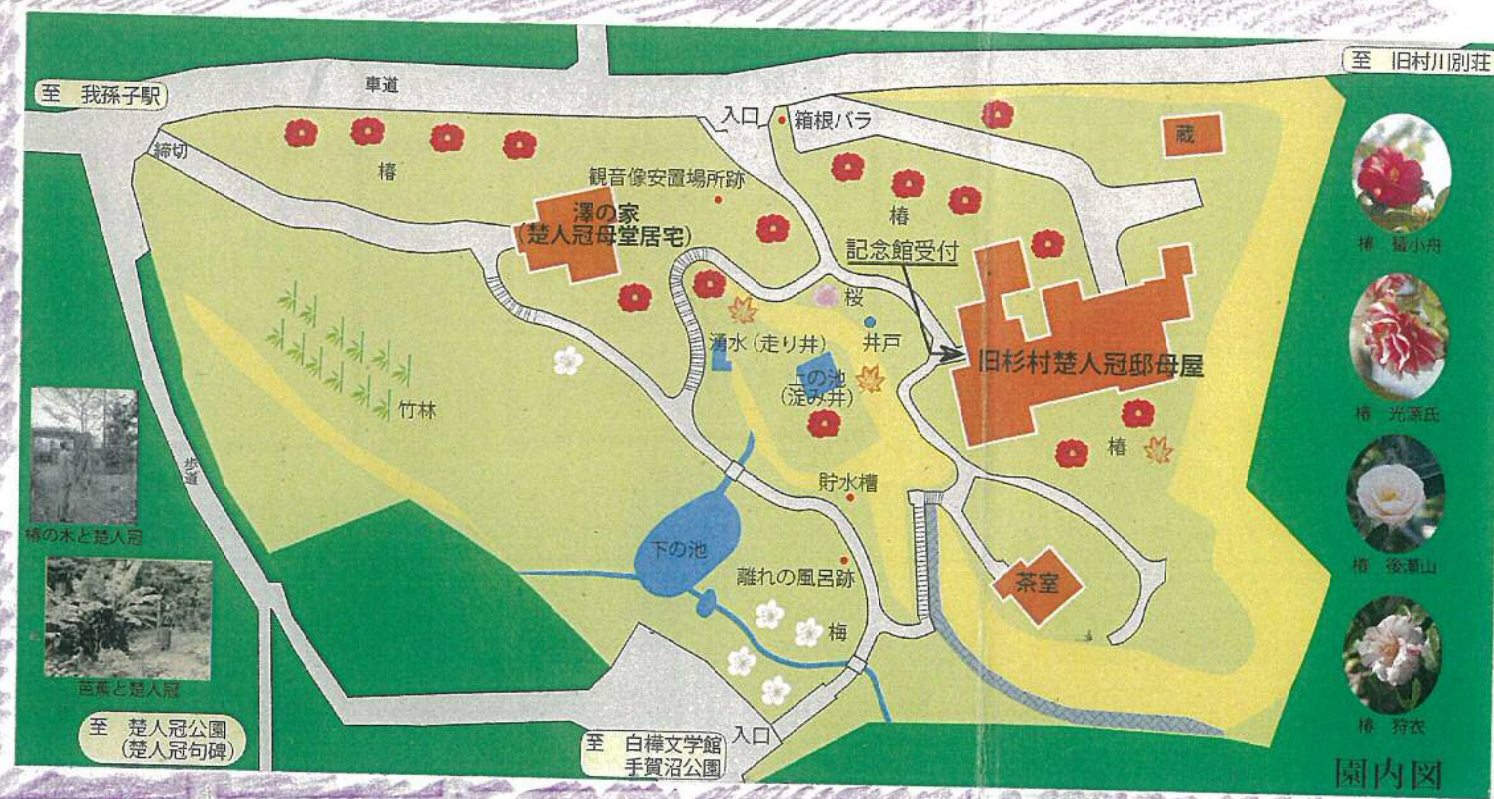
記念館についての説明記

杉村さん
実はゴルフも
好きだった
らしいです。



・和室・サロン・サンルーム・書斎の他に、
トイレ・展示室・事務室があります。
キッチンもあります。私のオススメはこのキッチン
です。かべの色がうすいきみどり色でと
てもあざやかな色だったのでとてもきれい
です。また、昔のガラスの食器は今のガラ
スとちがって、歴史を感じられるような色を
していました。そして、全体的にレトロ
な感じがしました。しかも、ガラスは昔の
ままなので、少しゆがんで見える所が
おもしろいです。ぜひ行って、見て、学ん
で楽しんで下さい。

←刻印機でおした
「安息の地」もの
千葉県我孫子と
書いてある。



左の地図は
記念館の地図
ですよ。

杉村が好きな花

椿



ひかるげんじ
光源氏
花びらがフリルになっている。



みうらおとめ
三浦乙女
色がうすくとても上品な椿。



きしゅうつかさ
紀州司
何重にも重なった花びらが魅力的。

その他

ばしゅう
芭蕉



・英名で「ジャパニーズ・バナナ」と言うバショウ科。
・一応食べれるらしい。

左は芭蕉と杉村さんの写真



名前の由来

楚人冠の名は「史記の項羽本紀」にある逸話からきたものであると本人が自著の中で述べています。



氏は言う「楚人は沐猴にして冠するのみと。果たして然り。この句を思い出し、楚人冠と名乗たそうである。

部屋の紹介

和室

ここにはかざるための石がある。ここにある石は古谷石という石。
・茶会をする時に使う「火戸」がある。これはいろりの小さいばんのようなもの。これで湯をわかしてお茶を入れる。
・とこの間、というお花やかけじくをかざる所がある。

サンルーム

冬は日がタタく入るのでとてもあたたかい。
昔はベランダだったので、その一部が今も残されている。

サロン

たてつけの本棚がある。これは地震がきてもたおれないように。
・たんろがある。冬はここであたたまっていたらしい。

書斎

刻印機がある。ここで手紙を書いていたらしい。
・大きなずりごんちんがある。文字はすみで書いていたようだ。



すぎむらそしんかん 杉村楚人冠とは



杉村楚人冠(本名:廣太郎)は1872年(明治5年)に和歌山県城下谷町で生まれました。楚人冠は明治末期～昭和前期に東京の朝日新聞で**大活躍**しました。

なんと!日本で初めて新聞社に**調査部**や**記事審査部**をもつけたすごい新聞人です。文章が**独特の皮肉**と**ユーモア**にあふれた文章が人気になり、また現役の文筆家として活躍しているうちから全12かんの予定で**全集**が刊行されるほど人気があったらしいです。

杉村楚人冠年表

1872年(明治5年)	旧暦25年に生まれる。
1887年(明治20年)	上京し、英吉利法律学校に入学。
1899年(明治32年)	糸結婚
1903年(明治36年)	東京朝日新聞社に入社。
1912年(明治45年)	我孫子に別荘地を購入。
1923年(大正12年)	日刊「アサヒクラブ」創設。
1924年(大正13年)	我孫子へ移住。
1927年(昭和2年)	手賀沼景勝保護運動を行う。
1939年(昭和14年)	日本新聞協会より表彰。
1945年(昭和20年)	10月3日死去(73歳)